

「看護師の臨床判断能力と影響要因に関する調査」結果（概要）

【調査概要】

目 的	看護師の臨床判断能力とその影響要因を把握するとともに、今後さらに国民のニーズに応える看護師を育成・確保していくための方策を検討するための基礎資料とする
対 象	現在患者/利用者への看護実践を行っているあらゆる場の看護師
方 法	ウェブを用いた無記名自記式質問紙調査
内 容	看護師の臨床判断や対応に関する設問、看護実践の自己評価に関する設問*等 *「看護実践の卓越性自己評価尺度—病棟看護師用—」（舟島ら, 2009）
期 間	2025年6月16日（月）～7月15日（火）
回収状況	回収数 6,086 有効回答数 6,023

【主な結果】

1. 回答者の属性について

- 平均年齢は44.5歳、通算臨床経験年数は「30年目以上」が最も多く24.4%であった。
- 教育・研修修了／認定資格取得状況：専門看護師376名、認定看護師2,669名、認定看護管理者441名、特定行為研修修了者1,331名、NP教育課程修了者141名を含んだ。
- 大学院修了状況：修士課程修了者847名、博士課程修了者48名を含んだ。
- 学習活動の機会：
 - ・実践した看護や事例を同僚や多職種等との振り返りを通じて学ぶ機会があるか：「やや当てはまる」が最も多く33.4%、「非常に当てはまる」、「やや当てはまる」、「どちらか」というと当てはまる」を合わせると80.0%であった。
 - ・主体的に自己研鑽の目標と計画を設定しているか：「やや当てはまる」が最も多く37.6%、「非常に当てはまる」、「やや当てはまる」、「どちらか」というと当てはまる」を合わせると84.4%であった。
- 看護実践の自己評価：「看護実践の卓越性自己評価尺度—病棟看護師用—」（以下、尺度）の総得点の平均値は134.4（141点以上が高得点領域）であった。
- 勤務先：「病院」が最も多く89.1%、次いで「訪問看護ステーション」4.6%であった。

2. 看護師の臨床判断や対応について

- 事例を用いて判断や対応を尋ねたところ、教育・研修修了／認定資格取得をしている群では、修了／取得していない群と比べて、より多くの判断や対応に関する選択肢を回答していた（具体的には、情報収集やアセスメント、医師への確認や医師・他職種との情報共有等）。
- 大学院を修了している群、実践した看護や事例を同僚や多職種等との振り返りを通じて学ぶ機会がある群、主体的に自己研鑽の目標と計画を設定している群、尺度の総得点が高い群、訪問看護ステーションや診療所に所属する群においても、上記と同様の傾向がみられた。

3. 看護実践の自己評価について

- 教育・研修修了／認定資格取得をしている群では、尺度の総得点の平均値が、修了／取得していない群と比べて高かった。専門看護師、NP 教育課程修了者の順で高く、両者の総得点の平均値は、通算臨床経験年数 30 年目以上の看護師の平均値を上回った。
- 大学院を修了している群では、尺度の総得点の平均値が、修了していない群と比べて高かった。
- 実践した看護や事例を同僚や多職種等との振り返りを通じて学ぶ機会があるほど、尺度の総得点の平均値が高かった。主体的に自己研鑽の目標と計画を設定している群においても、同様の傾向がみられた。
- 勤務先別にみると、病院に所属する看護師より、訪問看護ステーションや診療所に所属する看護師の方が、尺度の総得点の平均値が高かった。

以上